

同 志 社 大 学

2010 年度 個人研究費研究経過・成果報告書

2011 年 4 月 18 日提出

所 属	職 名	氏 名
神学部神学科	教授	水谷 誠
研 究 題 目	日本の宗教的原風景とキリスト教的言語理解	
研 究 成 果 の 概 要	<p>アニミズム、シャーマニズム的宗教性を背景にして営まれてきた日本の宗教文化の持つ特徴と、欧米世界に展開したキリスト教的なロゴス（言葉、論理）中心の思考法とを比較対照させることで、彼我の宗教文化の共通点と相違点を浮き彫りにすることを旨とした。具体的には、5月のドイツ・ゲッティンゲン大学リヒテンベルク・コレージュのワークショップで、自然が人格的に人間に影響を及ぼすという中世日本の宗教的法的世界観（「参籠起請」）に関して発表をし、引き続いてなされた議論の中で西欧中世にも類似の現象があることを確認した。その後の歴史的展開の中で西欧ではそのような世界観は表舞台から遠ざかり、日本では近代にいたるまで継続したことの背景を日本の宗教風土と西欧のキリスト教的世界理解の双方を念頭に置いて考察検討を続けている。</p> <p>その際に、キリスト教における神のロゴスは人のロゴスに分かち与えられるという理解の解明に重点を置いている。</p>	